

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年3月12日

社会福祉法人森友会
あゆみの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

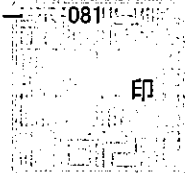
評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H2001040	☐ 福祉	☒ 経営
	②	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	③	H1501067	☒ 福祉	☐ 経営
	④	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	⑤	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	あゆみの森保育園			
事業所連絡先	〒	187-0003		
	所在地	東京都小平市花小金井南町2-3-19		
	Tel	042-420-2870		
事業所代表者氏名	小林 政洋			
契約日	2024 年	6 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年	9 月	6 日	
利用者調査結果報告日	2024 年	11 月	16 日	
自己評価の調査票配布日	2024 年	9 月	6 日	
自己評価結果報告日	2024 年	11 月	16 日	
訪問調査日	2024 年	11 月	22 日	
評価合議日	2024 年	11 月	22 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行うようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・「心身の調和的発達」を促す保育 ・「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 ・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 ・「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 子どもを尊厳のある人間としてきちんと向き合える人、いつもやさしい笑顔で子どもに無限の愛を与え、見守っていける人、そして子どものために自分を磨き、子どもたちとともに成長し続けることのできる人。そんな人を求めています。
	(2)職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 法人理念を理解し、保育のプロとして子どもたちの日々の成長、自主性を促す環境を整え受容的に関わること。また、専門性向上のための自己研鑽を怠らない事。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯55(在籍児童数63)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

63

利用者家族総数(世帯)

55

共通評価項目による調査対象者数

55

共通評価項目による調査の有効回答者数

39

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

70.9

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」41.0%・「満足」46.2%の計87.2%で、設問別では「急な残業等への配慮」「発達に配慮した保育活動」「食事」「子どもの気持ちの尊重」など、全17問中12問で80～90%台の高い支持を得ており、「戸外活動」では50%を下回っている。

自由意見では「先生が明るくいいききとしていて、子ども先生や保育園が好きで楽しんでおり、信頼できる」「先生方一人ひとりが誠実で肯定的な関わり方で、否定せず個々を大切にしてくれ、ネイティブ講師による英会話や表現活動等、保育園ではあまりない取組もよい」「養育、異年齢との関わり、表現活動や英語の時間がある点が気に入っており、欠席連絡や連絡帳もすべてウェブということも助かり、疑問や意見も親身になって聞いてくれ、丁寧に対応してくれる」「アプリや各種サービスが採り入れられ、保護者の負担が少なく、普段の様子や相談等も親身に対応してくれる」「子どもの不安に寄り添い、小さな変化にも気づいてくれる」「食育やいろいろな遊びを提供してくれている」などの声が寄せられている。

要望などとして複数見られたのは、日常の保育内容や保護者の就労・負担への配慮に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	2	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は5件で、「言葉や手伝い等、めざましく成長しており、感謝している」「1歳児から異年齢保育を行うことで、早いうちから上の子との関わり方が上手な気がしている」「先生方は一人ひとり、子どもの気持ちに寄り添ってくれ、精神的な成長をととても感じている」のほか、異年齢の活動内容や戸外活動のさらなる充実を望む声が見られる。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	3	1	0
「はい」が89.7%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、「楽しく通えている」「定期的に玩具の入れ替えを行っているため、いろいろな刺激を受けていると感じる」「毎日、折紙や絵等を持って帰ってくる」のほか、日常の活動内容や、戸外活動のさらなる充実を望む声が見られる。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	36	2	1	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、「給食はいつも考えられていておいしそうである」のほか、メニューや食事の味つけ、おやつの内容などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	19	15	5	0
「はい」が48.7%、「どちらともいえない」が38.5%、「いいえ」が12.8%となっている。 自由意見は12件で、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	2	0	6
「はい」が93.9%、「どちらともいえない」が6.1%となっている。 自由意見は1件で、受付時の接遇、お迎えの遅れ等への寛容さについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	27	9	2	1
「はい」が71.1%、「どちらともいえない」が23.7%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は6件で、外部侵入対策や保育中の安全管理、設備面等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	5	2	1
「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は3件で、「土曜日に設定してくれることはとてもありがたい」のほか、行事の日程の設定や柔軟性について、さらなる検討を望むが見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	3	2	0
「はい」が87.2%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は4件で、「よく先生方は子どもの様子を見てくれている」「先生方は話しやすく、とてもよい先生方である」「迎えの時に1日の様子を話してくれ、定期的に面談の時間があるので相談しやすい」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告や職員の対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	7	1	0
「はい」が79.5%、「どちらともいえない」が17.9%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、清掃や衛生管理について、さらなる配慮を望むが見られる。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	4	2	0
「はい」が84.6%、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は2件で、「いつも気持ちよく対応してくれている」のほか、職員の服装について、さらなる配慮を望むが見られる。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	3	1	0
「はい」が89.7%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見には「早退時も個別で様子を見てくれる等、申し訳ないながら、とてもありがたい」の1件があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	4	3	5
「はい」が79.4%、「どちらともいえない」が11.8%、「いいえ」が8.8%となっている。 自由意見は3件で、「無理に『ごめんなさい』や仲直り等を強要しないところが、子どもの気持ちに寄り添ってくれていてよいと思う」のほか、子ども同士のトラブル発生時の対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	1	2	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が2.6%、「いいえ」が5.1%となっている。 自由意見は2件で、「慈しんで育ててくれているといつも感じる」のほか、子どもの心情に寄り添った対応について、さらなる配慮を望むが見られる。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	31	3	2	3
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が5.6%となっている。 自由意見として、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	2	3	0
「はい」が87.2%、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が7.7%となっている。 自由意見は2件で、「相談にも真摯に対応してくれている」のほか、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	30	6	1	2
「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が16.2%、「いいえ」が2.7%となっている。 自由意見は1件で、保護者の不満・要望等への対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	3	3	24
「はい」が60.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が20.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	職員や保護者に対して、法人共通の保育理念や目指す保育をさまざまな方法で伝えている 法人共通の保育理念である「すべての子どもの最善の利益のために」と、「心身の調和的発達」など、保育における5つの方針を掲げている。職員には入職時の研修から入職後もさまざまな法人研修を通じ、これらの継続的な理解が促されるほか、年度初めに法人の理念の確認をするとともに、自己評価表の項目が理念に沿って設定されており、自己評価が再確認の機会となっている。保護者に対しては見学対応用のパンフレットや入園時の重要事項説明によって伝え、入園後も各便りや保護者会を通じた日々の保育実践の共有により、周知と浸透を図っている。 重要事項の決定手順を定めており、内容をさまざまな手段で職員・保護者へ伝えている 法人の重要事項についてはエリアごとのブロック園長会で伝えられ、職員会議で職員に周知している。また、乳児フロア・幼児フロアそれぞれにフロアリーダーが配置され、各フロアに関することは週1回のフロア会議で決定されている。園長・主任・各フロアリーダーで構成するリーダー会議が2週に1回行われ、そこで話し合われた内容のうち、全体に周知するものやスケジュールを職員会議で共有している。保護者に対しては、年2回の保護者会や園便り、連絡アプリにてお知らせを配信するとともに、園内に掲示をするなどして、各種の重要事項を伝えている。 職位・職種に応じた職責を各自が理解し、園の理念や目標の実現に向けて行動している 経営層を含む各職位・職種の業務内容を示す職務分掌表を作成し、それぞれの職責について組織内で共有を図っている。また職員会議や各種会議での話し合いを踏まえた改善に取り組むことで、園や法人の目指している理念や目標の実現を図っている。職員は上記の理念や方針を踏まえ日々行動し、自己評価表で自身の行動の振り返りを行っている。また、年間の主な行事の企画と実施を各職員が担当し、その準備の過程で重ねる話し合いが、理念や方針を実践から思い起こす機会ともなっている。	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
保護者や職員の声をさまざまな方法で集め、園の課題の把握や園運営に活かしている 保護者との個別面談を年1回行い、保護者の意見を把握するようにしている。保護者参加の行事の際には連絡アプリを使ってアンケートを行い、年度振り返りアンケート(行事について、日々の保育、その他)についての声を把握し、行事だけでなく翌年の園活動全体に活かしている。職員とは年に2回個別面談を行っており、園に対する意見や職員個人の将来像などについて話し合っている。また自己評価を年に2回行っており、必要に応じて面談を行っている。こうした個別の場に加え、各種会議で職員の声を集めるようにしている。 施設運営に関連する地域や業界情報の収集と、経営状況管理の体制を整えている 月に1回行われる小平市の私立保育所園長会や地区連絡協議会、小平市の担当課、法人本部などから、行政や業界の動向、保育・教育や子育て、保育所経営等に関する地域の状況、他園の取組など関連する情報を収集している。園の収支・稼働率などの経営状況の管理は園長が担い、法人と随時状況を共有している。会計業務や請求業務も園長が担当しており、状況を把握したうえで予算について法人と連携し、経営状況と園の意向を照らし合わせ、また各種補助金の情報を踏まえながら、園づくりに必要な物品等を検討し作成、執行している。 法人の長期計画を踏まえ、業務分野別、期間別の各計画に合わせた進捗管理を行っている 法人の10か年の長期計画があり、園の単年度の事業計画はそれを踏まえつつ、園固有の課題解決に向けて「保育内容の充実・質の向上」「教育研修(人材育成)」「保護者支援」「食事」「安全」「保健衛生」といった事項について、年度の重点課題・方針を定め作成し、事業報告書で振り返りを行っている。事業計画一式として、事業計画のほか全体的な計画(食育計画、研修計画、安全に関する事項についての計画、防災・防犯訓練実施計画表、保健年間計画、年間行事予定表、職務分掌表)を作成し、各内容や期間に応じた進捗管理を行っている。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
守るべき倫理・規範等を整備、共有し、また虐待等の防止のための体制を整えている 「職員の心得マニュアル」に、福祉サービスに従事する者として守るべき規範や倫理を明文化し、職員同士で保育について話し合う中で価値観を共有している。子どもの人権を尊重し、気持ちを傷つけるような言動など行わないよう、四半期ごとに「虐待防止チェックシート」を用いて振り返り、職員同士で意見交換している。また各階の保育室に複数の職員がいることで、相互に言動を確認できる体制になっている。まだ事例はないが、子どもを視診して様子を確認し、状況によって子ども家庭支援センターや児童相談所と連携して対応する体制をつくっている。 保護者の苦情や不満、要望等を把握し、園生活での支援・配慮に活かしている 苦情解決制度について重要事項説明書に記載し、入園時に説明するとともに、園内に制度についての案内や第三者委員の連絡先を掲示することで、保護者に周知している。受け付けた苦情については、案件に応じて対応や解決にあたり、受付内容について法人のホームページで公開している。また毎日の送迎時の声かけや定期的な個別の面談等で寄せられる声に加え、行事ごとや年度のアナウンスにより、保護者の意向について把握し、内容により回答、解決するようにしている。 園の透明性確保に向けたさまざまな取組と、地域との連携づくりに努めている 法人のホームページに法人の基本情報に加え、福祉医療機構のシステムと連動した現況報告書、計算書類、定款等の公開がなされている。また各園の自己評価を法人のホームページで公開するなど、透明性を高める取組を行うほか、当園のページに保育の様子や年間行事などを掲載している。市の保育所園長会や地区連絡協議会、保幼小連絡会、要保護児童対策地域協議会などに参画するほか、実習生の受け入れを積極的に行っており、受け入れマニュアルを準備し、対応している。見学で来園する未就園世帯には、求めがあれば育児相談等に応じている。		

カテゴリ4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
カテゴリ4の講評		
安全計画のもと、さまざまなリスク対策を行い、保護者や消防署とも連携を図っている 安全計画を作成し、安全点検、事故・災害・感染症・不審者など各リスクに対するマニュアルの作成、児童・保護者に対する安全指導、訓練・計画といった項目について整備、共有を行っている。毎月の防災訓練は職員全員がそれぞれ担当し、運営することで意識を高めている。また毎年1回、消防署監修のもと救命講習や消火訓練を実施し、保護者と連携して引き渡し訓練を実施するなどしている。BCP(業務継続計画)を作成し、職員には年度初めに確認を促している。安全計画及びBCPは玄関内の共有スペースに設置し、保護者が閲覧できるようにしている。 保育中のさまざまなリスクについて、事例の共有と分析を行い、安全対策に活かしている ヒヤリハットやケガ等の保育中の事故は、発生時の状況の検証をもとに原因や防止対策を検討し、再発防止と予防につなげるほか、軽微なものは「内科・外科ノート」に情報を記録し、各種のケガは看護師の集計による傾向の把握を行い、組織全体で共有を図っている。また法人が「安全レポート」として随時発信する系列他園の事故等についても、回覧によって組織内で共有している。また感染症については必要に応じ、保護者にも連絡アプリにて発生状況を周知し、注意喚起を行っており、子どもの睡眠時の状態確認など、SIDS対策にも取り組んでいる。 各種情報の漏洩防止のための仕組みと、適切な利用・管理の規程が整備されている 法人の「個人情報管理規程」や「個人情報管理マニュアル」に情報管理に関する規定や規則が定められており、職員に対し入職時の研修等で理解を深める取組を行っている。個人情報関連の書類は鍵のかかるロッカーに収納し、事務所内閲覧を原則としている。保育アプリや共有フォルダのデータはID・パスワードによるアクセス管理を行い、情報漏洩防止への配慮がなされている。保護者には入園時に「個人情報の取り扱いについて」をもとに個人情報の利用目的等を説明して同意を取り、園便りやクラス便り、アプリへの写真掲載について許諾を取っている。		

5		カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準项目实施状況	10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)	
評価	標準項目		
☐ あり ☒ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		☐ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ5の講評		
園の状況や経験に応じた職員の確保と配置、新人の定着への取組に努めている 法人として採用ページや求人サイトでの求人募集、養成校の訪問や就職フェアに参加し、自園の特徴や保育の想いについて説明しており、園見学の受け入れも行っている。配属に関しては希望の園を聞き、各園の状況を考慮して配属している。園内でも本人の希望を踏まえつつ経験度を考慮して配置し、さまざまな経験が積めるよう考慮している。新人職員のOJTは職員全体で行い、年齢の近い先輩職員がパディ職員として支援にあたるなど、相談しやすい環境を整えている。 自己評価と他者評価による振り返り、他園の視点による保育についての学びを行っている 自己評価表を用いて人物面や保育面について自己評価、目標や研修の希望を記入し、期中に進捗状況について面談している。期末に職員評価として自己評価とほぼ同じ項目で主任と園長が評価を行い、面談でその振り返りを行っている。園長・主任の評定の平均を出し、登用や昇格などの人事に反映させることで、賃金面でも成長や貢献に応じた待遇がなされる仕組みとし、意欲の向上を促している。法人で大切にしている保育について、実践保育(他園の園長、主任が保育に参加)という取組による他園からの視点を保育の質の向上に活かしている。 働きやすい職場と働きがいのある職場づくりに向けた取組がなされている 有給休暇取得や時間外勤務の状況を主任及び園長が把握・管理しており、法人で定期的なストレスチェックや園長・主任による個別の声かけ、面談の実施により、心身の健康管理に努めている。また、事務室内の話しやすい雰囲気づくりや、懇親会の補助を行うなど、働きやすい職場環境づくりを行っている。主任が業務改善アンケートを実施し、職員から出てきたさまざまな意見やアイデアを採り入れ、業務改善を行うことで業務効率が向上し、時間外勤務の削減につながっており、また職員それぞれの改善意識とモチベーションの向上にもつながっている。		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 開園から2年目にかけて職員の入れ替えが多く、保育がなかなか安定しない部分があったこともあり、当園の保育の土台・基礎を固め、安定を図り、子どもも保育者もより過ごしやすい園にしていく必要があると考え、昨年の重要課題を「保育の土台をつくる」とした。具体的には、前年度は情報共有不足でそれぞれが勝手に行動してしまう面が見られたため、フロア会議を小まめに実施し、フロアノートを活用したりするなどして、課題や進むべき方向性について認識を共有しそろえていった。またそうした話し合いを通して、1年目のやり方にとらわれず、園児数に合わせた教具教材の充実や環境の見直し・改善を図った。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 フロア会議を実施することで保育の振り返りを適宜行うことができ、子どもの姿の変化につながっていった。1月からは進級も見据えてワンフロアで過ごしたことにより、会議の中で乳幼児職員がお互いに意見を交わすことができ、保育に活かすことができた。また、それに伴い子どもたちも安定して過ごす姿が増えてきた。園児の様子や計画した行事等に合わせ、また、次年度以降の継続性等も考慮して教具・教材を購入または制作し、保育環境の充実を図ることができた。不安全要素の排除に努め、適宜環境の改善を図ることができたなどの成果が見られた。 開園3年目を迎えるにあたり、法人の保育を改めて園全体で考え、実践していくことを目指している。保育が安定することで、職員も自信を持って保育に臨んだり、意見を交わす姿が増えたことから、新規採用職員や他園からの異動職員の意見も受けとめ、今の園児や環境に合った保育を提供できるようにしていくとともに、保育の質を向上させることを目標とし、実践保育など新しいことにも取り組み、法人の保育をより深めていくこととしている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

常勤職員の8割が新規採用や異動職員等、当園での勤務歴の浅い職員が組織の主力を担うことから、昨年度はチーム保育に不可欠なコミュニケーションと職員間の連携を強化するための環境づくりに取り組んだ。法人の大切にしている保育を軸としつつも、各種の行事・活動等においては自由な発想のもと、それぞれの経験等も活かした活動などを計画していくことを昨年度の重要課題とした。
具体的には、人を複数の性格のタイプに分類する理論の研修を受講し、9つの性格タイプでお互いを理解し、よい悪いではなく、お互いの考え方の癖を理解してコミュニケーションするようになった。そのコミュニケーションをベースに、さまざまな場面で職員同士で振り返りを行い、良好な事項の共有と不具合事項の改善を適宜行った。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

経営層は上記の性格タイプを学んだことが、組織を構成する職員のそれぞれが自身及び他者理解を深め、良好な人間関係の構築やチームワークの向上につながったと考えている。またその関係をベースに、さまざまな場面で振り返りを行い、良好な事項の共有と不具合事項の改善を適宜行ったことで、職員一人ひとりの自信と改善意識を向上させることにも結びついている。今後もコミュニケーションの向上と振り返りを重視し、職員の定着と育成、チーム保育の更なる向上につなげていくこととしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
ホームページやパンフレットを通じ、入園希望者への園の情報の発信に努めている 法人が運営するホームページに、本園のページが設けられており、園の概要として所在地・定員・保育時間などの情報が掲載されている。また、園での1日の流れが1歳児と2歳以上児の二通り掲載されているほか、行われる年間行事や同法人が運営する保育園の情報なども得られるようになっている。ホームページに加え、園見学に訪れた人へ向けたパンフレットを作成しており、園舎外観・園庭・保育室の写真や、保育の特徴として異年齢児保育や表現遊びなどの写真を積極的に使用し、視覚から園の様子がわかりやすいよう工夫している。 行政の各種媒体から、園の情報が発信されている 小平市のホームページ内にある私立保育所の一覧に、当園の情報が掲載されており、住所・電話番号・定員・保育する対象年齢などの情報を得ることができるほか、市内の保育施設・幼稚園マップに具体的な場所が示されている。上記の園のサイトへのリンクも設定されており、入園希望者が詳細な情報にアクセスできる環境となっている。また地域のお祭りである「灯りまつり」に、園で灯籠を作り参加するほか、近隣の公民館等と交流する機会を得ており、今後パンフレットを置かせてもらうなど、さまざまな場所から園の情報を発信する取組を検討している。 園見学では、園の特色や大切にしていることを中心に説明している 園見学は電話により予約を受け付け、1日に3家庭程度に制限することで、その場で質問しやすい雰囲気をつくるなど丁寧な対応に努めている。上記の見学者用のパンフレットを手渡し、異年齢児の環境による生活や、子どもが活動を選べることを旨とした保育など、法人の理念や大切にしていることを説明している。同法人の系列園をすでに見学している保護者には柔軟に対応し、0歳児がいないことなど近隣の園との違いも併せて説明することとしている。内覧では実際の環境や子どもの様子を見ながら園の特色を中心に説明し、適宜質問等にも答えている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	☐ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	☐ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園が決まった家庭には「入園のしおり」等を送付し、説明会を実施している 4月に入園が決まった家庭には、入園時に提出してもらった各種書類や「入園のしおり」、使用している保育アプリへの登録方法などの案内を送付し、後日説明会を実施している。説明会では同じしおりとスライドを併用し、提供している保育サービスや登降園のルールなど、重要ポイントを絞って説明している。説明会では質疑応答の時間を設け、その後の個人面談においても意向の確認を行い、書面への記名により同意を確認している。なお、年度途中の入園が決まった家庭に対しては、重要事項等の説明や面談は個別に日時を設定して行うこととしている。 提出された書類や面談等により、保育に必要な情報の収集に努めている 上記の入園説明会の後、提出された各種書類に基づき個人面談を実施している。面談で聴き取った情報等は、必要に応じて提出された書類に赤字で追記し、記録に残している。市から共有された情報を事前に確認しておき、アレルギー等がある子どもには、必要に応じ法人の栄養士や看護師が同席し、保護者の意向の確認や園での対応の検討を行っている。また0歳児の在籍はないが、必要に応じて食事の形態を写真付きの資料を用いて説明し、個別の配慮に努めている。得られた新入園児の情報等は、フロアごとにまとめた資料を作成し、職員間で共有している。 入園直後の子ども・保護者の不安・負担の軽減に努め、卒園後の支援継続を図っている 入園直後には保護者の就業状況を考慮しつつ、保育時間を短めに設定する「慣らし保育」を実施している。期間は3週間を目安としつつ、園児の様子に合わせて保護者と相談しながら個別に調整している。入園後の子どもや保護者の様子や変化等の情報は、「フロアノート」「コミュニケーションノート」等を使用して職員間で共有し、園全体で援助できるようにしている。また5歳児世帯には、個人面談や保護者会を通じて就学に向けた園の取組を説明し、不安がある家庭には個別に声をかけ、卒園後も相談を受け付ける旨を伝えるなど、不安感の軽減を図っている。			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当	

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している			☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している				
評点(〇〇〇)				
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている			☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評				
子どもの発達の状況を継続的に記録する仕組みを整えている 入園時に把握している子どもの成長・発達の情報は継続的に記録している。心身の発達については、年齢別・領域別の主な発達の現れに関するリストを用いて確認しており、年度当初に担当が所見を記し、年度末には総合的な子どもの姿を記述して次年度につなげている。子どもの多面的な姿を把握できるよう、職員間で日常的な話し合いに努めており、具体的な協議や全体共有が必要なものについては会議の議題にも挙げるようにしている。また個人面談の前には、保護者に伝えたいことを書き出し、一覧化して職員間で共有を図っている。 全体的な計画をもとに保育・行事・食育・保健の計画を作成し、実践している 全体的な計画をもとに長期・短期の保育計画を作成している。年齢別の年間を4期で構成する長期計画を、週間の短期的な計画に展開して実践に活用している。2歳児以上の週の計画では、年齢ごとにねらいを定め、異年齢保育の中にあっても、年齢に応じた活動内容や配慮となるよう努めている。保育の計画のほか、食育・保健・行事についても計画を作成している。計画は実践後に評価・考察を実施し、次の援助・活動に役立てている。個人別の計画は満3歳まで四半期毎に作成して個々の発達に応じ、2歳以上児の週の計画には個別の配慮の内容を記載している。 職員間における情報共有の機会を設け、保育の目標や内容を保護者に伝えている 日々の職員間の情報共有は、保育者間の会話のほか、フロアごとに用意する「乳児・幼児フロアノート」によって行われている。「フロア会議」では、子どもの姿や環境構成・保育内容について話し合い、決定事項の周知が図られ、職員会議では園全体の取組とその予定や評価・考察、安全面や保育面の注意喚起、看護師による実技研修などが行われている。さらに行事を実施する際には、行事のねらいを確認し話し合う時間を設け、認識共有を図ったうえで取り組むようにしている。保育の目標や内容は、保護者会や毎月のお便りや掲示物で保護者に伝えている。				

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報やプライバシーの保護や羞恥心の芽生えへの配慮に努めている 個人情報の利用の同意や、プライバシー情報に関する利用の可否に関する意向は入園時に確認している。入園後に病院受診のほか、発達支援に関する専門家による個別の観察を受ける場合など、子どもの情報を外部に提供する場合によっては、そのつど保護者の意向を確かめることとしている。子どもの羞恥心の芽生えやプライバシーへの配慮として、幼児クラスの着替えは周りから視線を避けられるよう、ロッカーで囲われた場所で行うようにするほか、外部から見られないよう、カーテンを引くなどの対策を講じることとしている。 個々の主体性を保障する環境整備と援助や、各家庭の生活習慣等への配慮に努めている 各階の保育室は室内を区画する壁のない、ワンフロアの造りとなっており、1歳児と2歳以上児がそれぞれ生活をともにする中で、誰とどこで何をして遊ぶかを子ども自身が選ぶなど、個々の意思と主体性の尊重を保育の基本に置いている。また時計に色を付けて時計が読めない子どもにも時間がわかるようにし、自分で次の動きを考え、見通しを持って行動できるようにしている。各家庭の子育てに関する価値観や生活習慣は、入園時や日々の会話の中で確認するとともに、連絡帳等で確認した生活リズムなどを考慮し、食事や午睡の時間を調整している。 虐待や子どもの権利擁護について、職員への啓発や手引書の整備がなされている 「職員の心得マニュアル」に、人権に配慮した保育について明示されており、子どもの愛称を用いたり、呼び捨てにしないこと、無理に寝かしつけないなど、子どもへの好ましくない態度や接し方などが記載されているほか、好ましい伝え方への言い換えなども示されている。また例年11月に不適切保育について注意喚起を行うとともに、虐待防止月間の情報共有や虐待の種類・通報手順等の確認など、職員の虐待に対する理解を深めている。各職員は保護者とのやり取りや着替えなどの際の子どもの観察など、日頃から虐待等の兆候の把握に取り組んでいる。			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
法人共通のマニュアルや手引書、園独自の手順書等を備え、業務の標準化を図っている 勤務中の服装や態度、安全管理や衛生管理、苦情対応や個人情報管理など、さまざまな業務手順を定めた法人共通のマニュアルを作成している。マニュアルは一つのファイルにまとめて事務室内に設けられ、職員がいつでも閲覧できるようにしている。また大切にしている「誉める保育」や保育環境などについては「コンセプトブック」に示し、保育実践の土台となる考え方を明らかにしている。保育室には、災害時に職員一人ひとりの役割を明確にする「アクションカード」や、勤務別・出勤時間別に行うべき業務の一覧を常設し、手順の標準化を図っている。 テストや系列園との連携など、業務の質を高めるさまざまな工夫に取り組んでいる 保育時間や延長保育の利用料金などについては、保護者に配付している「入園のしおり」を参照し、保護者からよく聞かれる内容について、記載される情報からテストを作成し、職員の理解を確認している。テストには保育者として必要な基礎知識なども盛り込み、解説は正解した職員に行ってもらうなど、専門職者としての意識の向上や、保護者からの問い合わせへの対応に関する認識の標準化を図っている。また保護者を装った者から電話が来た時の対応について、答えてよい情報とそうではない情報を確認するなど、多様な研鑽に取り組んでいる。 保護者・職員・姉妹園の職員など多様な声を聴き取り、業務改善に臨んでいる 系列園の職員が来園し、保育を行う「実践保育」では、現場に入って感じたことや改善点・課題などを来園者から把握し、園の保育の見直しに役立っている。また保護者の意向や要望等は、日頃から行われる送迎時の会話やアプリ連絡帳の交換などのほか、保護者が参加する行事の後や年度末に行うアンケートから把握し、実施可能な改善に反映させている。入園のしおりや入園時に使用する書類等は、保護者・職員の意見などを踏まえ、例年12月頃に内容を見直している。改訂した書類やルールの変更点、その意図などは、職員会議で周知・共有している。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
子どもの成長・発達の把握と、環境設定の工夫や意欲への配慮に努めている 子どもの成長・発達については、日々の保育や保護者からの聴き取りから把握しており、個々に必要な援助につなげている。また環境構成についても子どもの状況を踏まえたものとなるよう適宜変更しており、子どもの主体的な活動を促せるようにしている。保育環境は毎週土曜日の見直しを基本とし、子どもたちの興味のほか、遊び方や取組方から、教具の内容、コーナーの位置や広さ、動線などを必要に応じて変更している。また子どもの人との関わりを促せるよう、子どもの行動や意欲などを肯定的に受け止め「誉める」ことに努めている。 異年齢児の関わりが日常的に持たれており、年齢相互の育ち合いが促されている 2歳以上児がワンフロアで生活と遊びをともにすることで、年上児の様子を見てまねようとする年下児の姿が見られており、意欲が高まったり、遊びを獲得したりするほか、年上児が年下児にお世話しようとするなど、異年齢同士の成長が促されている。保育者は様子を見守りつつ、関わり方を教えたり、相手の感情を代弁したりするなどの援助に努めている。また異年齢児がともに過ごすことで、子どもたちは疑似きょうだいの体験をするだけでなく、学年に関わらず、興味・関心や理解の度合いが近い子どもたちの、主体的な遊びの保障にもつながっている。 子どもの発達の特性を配慮し、円滑な就学への援助に努めている 特別な配慮を必要とする子どもへの対応では、会議などを通じ、子どもの特性や体質への安全で適切な援助について話し合い、認識を共有し、保護者と連携を図りながら、家庭での取組や姿のほか、医師からの指示を聴き取っている。市の巡回指導を利用し、専門家による観察後にカンファレンスの時間を設け、そこで得た助言も援助に役立てている。また法人が開設予定の児童発達支援施設の職員の助言も受けている。就学への円滑な接続に向け、「就学支援シート」の作成にも協力している。今後は子どもが学校に出向いて体験する機会を設けたいと考えている。		

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
登園時には子どもの状態を確認し、降園時にはその日の様子を伝えている 登園時は受け入れを担当する職員が子どもと挨拶を交わしながら、視診を行って、体調や機嫌を確認するほか、保護者から家庭での様子を聴き取っている。視診時の状況や聴き取りの内容のほか、降園予定時間、日中の子どもの健康面やケガ、事務連絡など保護者に伝える必要がある情報を「受け入れ引き渡し簿」に記入している。降園時には1日の様子を、できる限りエピソードを添えて保護者に伝え、日々の保育の様子は写真や動画を配信するほか、写真入りの活動の報告「活動の様子」を保育室の入口に掲示し、玄関ホールでも動画を再生している。 休息は子どもの必要に応じて取れるよう配慮している 休息は子どもたちの生活リズムや体力のほか、睡眠の欲求に応じて取れるようにしており、午睡の時間は目安として設けるものの、午睡を取るかどうかは、子どもが選択している。睡眠時にはSIDS対策として、定期的に子どもの呼吸や体勢等の確認を行い、記録に残している。また保育室内には、絵本コーナーなど、ゆっくりと身体を休ませることができる空間を用意するほか、保育室の一角に布団を出して身体を横にできるようにしている。水差しが用意されて、自由に水分補給ができるなど、いつでも心身のリフレッシュが図れる環境となっている。 生活習慣の取得・自立への援助は、子どもの意欲を尊重し、家庭と連携を図り行っている 排せつの自立への援助では、排尿間隔を把握し、繰り返し誘いかけ、うまくできた時に喜びを共有して誉め、タイミングをつかめるようにしている。また家庭での様子や取組状況を聴き、脱ぎ着しやすい服や靴を用意してもらうなど、保護者との連携にも努めている。手洗いや荷物の整理整頓などは、子どもと一緒にしながら手順を伝え、手順を示すイラストや収納場所を示す写真等の視覚的な情報を掲示するなど、子どもが思い起こすための環境面の工夫もなされている。子どもが自分で行おうとする姿には、うなずきやジェスチャーなどで応えている。		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当
評価項目3の講評		
協調性等の心の育みを促す集団活動では、子どもが意欲的に参加できるよう配慮している 行事など集団活動を採り入れる際には、イメージを持って活動に参加できるようにするために、朝の会で活動の内容や楽しさを伝えるほか、行事で扱うテーマを保育活動にも採り入れるなど、導入や内容の工夫に努めている。参加が難しい場合には、無理に参加させることはせず、雰囲気を感じられる場面で見学することも体験の一つと考えて誘いかけ、事前に活動の内容を知らせて見通しを持てるようになるなど、援助の工夫に努めている。集団活動は協力することや約束を守ることを学ぶ機会にもなっており、協調性や規範意識の育みにつながっている。 子どもの発語を促し、心地よいコミュニケーションを体験できるよう配慮している 子どもが言葉の感覚を得られるよう、状況・感情・感覚・事象と単語を結びつけて伝えており、その際には言葉やジェスチャーを用いながら、目線を合わせて、口の動きを見させている。子どもの喃語や指さしなどのメッセージには、言葉を添えたり、復唱したりするなど、受容と共感を伝えるようにしている。子どもが心地よいコミュニケーションを通じて言葉のやり取りの体験ができるよう、保育者は笑顔を見せたり、ハグなどのスキンシップを用いたりしながら、応答的なやり取りを大切にしている。また絵本の読み聞かせや手遊びも積極的に採り入れている。 子どもたちの感性を育むさまざまな活動に取り組んでいる お花見散歩や水遊び、旬の食材を用いた食育、餅つきなど季節感のある活動を行うほか、保育室内には制作や描画、楽器遊びを楽しめる環境を整え、思うままに取り組めるようにしており、合奏、オペレッタ(音楽劇)や外部講師による英語も採り入れている。散歩は公園などに向かうことを目的とするのではなく、子どもたちのつぶやきや気づきに応答するなど、しっかり会話することを大切にし、興味を広げられるようにしている。またカブトムシ等の虫の飼育にも取り組み、命の大切さや難しさを感じる機会にもなっている。		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
行事は子どもの関心や発達を踏まえて、無理のないよう計画的に進めている 行事は生活と遊びの延長上にあるものとし、日常の子どもの興味・関心を踏まえることで、子どもの主体的な参加を促すほか、行事のためにあえて練習をしたり、保育士の都合で日常の生活スタイルを変えたりしないことを方針としている。また年間の子どもたちの育ちの見通しの視点を持ち、無理のないよう計画的に進めることも大切にしており、行事を実施する際には、行事のねらいを確認し話し合う時間を設け、認識共有を図ったうえで取り組むようにしている。行事計画書にはねらいや準備・内容・環境設定・配慮を記入し、実施後には反省を行っている。 子どもたちが行事に主体的に参加し、達成感や充実感を得る体験をしている 「もりんびっく(運動会)」では5歳児は三輪車を使ったリレー、4歳児は平均台・ボール投げなどに取り組み、身体を動かすことの楽しさを味わい、協力して一緒に取り組むことを体験している。「フェスティバル」では子どもたちがオペレッタを発表し、表現することを楽しみつつ、皆で作り上げる体験をしている。「お泊まり保育」では自立心や、他児と協力することで協調性を育むことなどを目的に実施している。調理器具を用いてカレー作りを行うほか、持ち物リストを作り、子どもと一緒に確認してもらうよう、保護者に協力を呼びかけている。 季節ごとの伝承行事や遠足などの諸行事に取り組み、様子を保護者に伝えている 夏祭りは保護者とともに祭りの雰囲気の中で、金魚すくい・宝探し・ボウリングなどのゲームを楽しんでいる。七夕や節分など、季節ごとの伝承行事では、行事の意味やいわれのほか、昔の人たちの願いなどを伝えとともに、行事を象徴するものをテーマにした制作、歌、行事食とも関連づけるなど、子どもたちが文化に触れる機会となっている。そのほか遠足に出かける行事への取組は日々の送迎時の対話や掲示物などを通じて保護者に伝えており、夏祭りやもりんびっくなどの保護者参加行事の際にはアンケートを実施し、結果は次年度の参考としている。			

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
保育時間が長くなる子どもが健康的に過ごせるよう配慮している 保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせるよう、視診や検温などの健康観察を行って体調の急変に備え、休息は子どもの体調や体力のほか、生活リズムなどを踏まえ、個々の必要を見きわめて取れるようにし、水分補給についても、定期的に促すほか、子どもが飲みたい時に飲めるようにしている。延長保育では生活リズムを考慮して、補食・夕食を提供し、栄養を補給するとともに、空腹による不安の軽減を図っている。全年齢の合同保育になる際には、安全に過ごせるように提供する玩具の大きさを考慮し、子どもたちにも注意を呼びかけている。 1日を通じて子どもたちが飽きることなく過ごせるよう、配慮や工夫に努めている 子どもたちが1日を飽きることなく過ごすことができるよう、日中は子どもたちが好きな活動を選ぶことができる時間を確保しており、屋内・屋外も自分で選択できるようにするほか、時間を決めてお集まりをしたり、紙芝居を見る時間等をつくったりするなどの工夫に努めている。子どもの人数が少なくなってゆく夕刻以降の保育では、少人数ならではの関わりを大切にしており、保育者はゆったりと会話をしたり、一緒に折り紙などの机上遊びを楽しんだりしている。また情緒面に不安が見られる場合には、スキンシップを図るなど安心できるよう配慮している。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		☐ 非該当
評価項目6の講評			
食事は子どもが自分の意思やタイミングで食べられるようにしている 子どもが自分の意思で食事を摂る選択ができるようにすることを大切に考えている。子ども一人ひとりの生活リズムにより朝食を食べた時間が異なること、体力などによって空腹を感じるタイミングは異なるため、食事の時間は一斉ではなく、それぞれが食べたい時間に食べられるようにしている。子どもたちが自分の食べたい量を伝えて保育者に配膳してもらい、席まで運んでいる。1歳児から自分で運ぶことを探り入れており、自分の食事を大切に運ぶことを通じて、食事を大切にする気持ちも育んでいる。 食物アレルギー対応食や離乳食の安全な提供に努め、喫食状況から改善に取り組んでいる 食物アレルギーを持つ子どもへの対応では、医師による指示に基づき、保護者と面談を行って子どもの状況を確認し、園での対応に関する同意を得たうえで、対応食の提供を行っている。事前に献立を保護者に伝えて確認をもらい、提供する際には複数職員で確認するほか、着座の位置を考慮し、専用のトレーを使用するなど、誤食防止に努めている。離乳食への提供が必要な場合には、経験食材、咀嚼や嚥下の状況を踏まえながら進めている。子どもたちの喫食状況は保育者と調理担当の間で共有に努め、味つけや切り方など調理の際の改善に取り組んでいる。 子どもが食事や食材への興味を高める食育活動が年齢発達に応じた内容で実施されている 1歳児ではトマトやカボチャを漬したり、キュウリをもむなど、簡単な調理を体験し、2歳児以降では発達に合わせ、混ぜたり型抜きをしたりするほか、栽培したパプリカを用いたピザも作っている。また食材・料理に関する知識を伝えており、年長児はかつお節と煮干しのだしを味比べをするほか、寄せ豆腐作りの際には、大豆がさまざまな食材の原料であることを教えている。園庭ではプランターを用いて野菜の栽培にも取り組んでいる。また保育者は子どもと一緒に食事を摂り、会話を楽しみながら、マナーを伝えたり、食材や料理の話をしたりしている。			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
日々行う保健指導では、子どもたちの興味を促すさまざまな工夫に取り組んでいる 散歩や園庭で遊ぶ際には遊具の安全な使い方を伝え、紙芝居やお集まりの中で安全や危険な物・行動などについて話をしている。また、歯磨き指導では、キャラクターのイラストを用いてオリジナルの教材を作り、歯ブラシの模型に絵の具を付けて磨き方を指導するなど、子どもたちの興味を促す工夫を行っている。階段の使い方や水遊びの危険な行為についても、保育の中で指導しており、毎月の身体計測の際に集まったところで、手洗いや咳エチケットの話をするほか、自身の体重をカボチャを用いて数字から可視化するなど、さまざまな保健指導を行っている。 毎日の子どもたちの健康の保持に努め、個別対応の情報等を文書化し、対応に備えている 食事の前や戸外活動の後などには手を洗うよう伝え、徐々に習慣化するように努めるほか、石けんで洗うことの大切さを伝えるなど、日々の生活の中で子どもたちの清潔と健康への意識を高めている。看護師が園内を巡回し、子どもたちの健康状態について保育士から情報収集を行うほか、子どもの様子を確認したり、ケガをした子どもの初期対応を行うなどの、健康保持活動を行っている。アレルギーや痙攣の既往歴のある子どもに対しては、必要に応じて症状や薬の預かり、薬の使用基準となる体温などを文書化し、緊急時に備えている。 家庭や園医との連携を図り、子どもの健康の維持に向けて取り組んでいる 子どもの健康状態やかかりつけ医は入園時に提出される書類や面談により把握に努めている。近隣の病院の情報を一覧にまとめており、一つの診療科につき複数の病院を掲載し、休診日への備えや保護者への受診の選択肢となるように工夫している。園医とは健康診断の際に連携し、前回診断時に経過観察となった子の状況の追跡や、近隣で流行している感染症の情報を得ている。また、定期的に行われる内科検診・歯科検診の前に保護者にアンケートを採り、園医に聞いてほしいことを募っており、医師の回答は書面にして保護者に提供している。		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
持ち物や延長保育の実施、行事日程の配慮など、多様な保護者支援を行っている 靴や布団などに指定品は設けず、おむつのサブスクリプションサービスを開始するなど、持ち物についての保護者負担の軽減を図っている。電車遅延など突発的な保育時間の延長に電話一本で対応している。夕食を食べない子どもには、おにぎりなどアレルギーフリーの補食を提供している。年間行事予定表を年度初めに配付し、毎月発行している園便りにその月の行事について掲載している。また、「もりんびっく(運動会)」や「フェスティバル(発表会)」は土曜日の開催として、保護者のスケジュールに配慮している。 育児講座や「定期公開日」の活動など、保護者の養育力向上に向けて取り組んでいる 年に一度、保護者を対象とした育児講座を開催し、上手な養育方法などに加え、法人が大切にしている保育の考えや実践につながる話を盛り込み、保護者の子育てに関する理解を深めている。月に2回程度行われる「定期公開日」では、年齢に応じて園での普段の様子を見る工夫がなされているほか、給食の提供も行っている。保護者との個人面談は年に1回時期を設けて参加を呼びかけるほか、保護者からの希望や園が必要と感じた際などにも随時行っている。施設の構造の制約上、込み入った話の場合は土曜日に設定するなどの工夫を行っている。 保護者会では保護者同士の懇談の時間を設け、保護者との共通理解獲得に努めている 年に2回保護者会を開催し、その中で懇談の時間を設け、自己紹介や育児の悩みを相談するなど、保護者同士で交流できるようにしている。使用する資料には写真を用いて「生活」や「遊び」など園生活の場面ごとにコメントを付けて紹介している。また、事前に保護者にアンケートを採り、園運営や保育に関する質問を収集し、回答をまとめた資料を配付することで、保護者の疑問や不安の解消に配慮している。2回目の保護者会では上記に加えて「入園のしおり」の変更点を周知し、翌年度の開始時から新しいルールを円滑に運用できるよう工夫している。		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
評価項目9の講評		
散歩や遠足を行う中で、さまざまな体験の機会確保を図っている 園周辺の公園に散歩に行く機会を設け、身体を動かしたり自然とのふれ合いを楽しむなど、ねらいに応じて行き先を決めて、園庭とは違ったさまざまな活動へと展開させている。また、公共の施設や距離のある公園に遠足に行く機会も設けている。長距離を歩く中で交通ルールを意識し、広い場所でボールやフリスビーなどを用いて思い切り身体を動かすことを楽しんでいる。法人が所有しているバスで行く公共の施設への遠足では、集団行動の中で公共のマナーに触れるなど、多様な体験の中で子どもたちの社会性を育んでいる。 地域から人を招いたり地域の祭りに参加するなど、多様な人と交流できるよう努めている 避難訓練の際には消防署の職員に園に来てもらい、職員の消火訓練を園児も見学するほか、間近で消防車を見せてもらっている。またボランティアの受け入れや、外部から講師を招いて英語のプログラムを行うなど、子どもたちが園の職員以外の人と交流できるようにしている。地域のお祭りである「灯りまつり」に参加し、クラスごとに灯籠を制作し、お祭り当日には会場で展示している。また、クッキング活動で使用する食材を子どもたちと買いに行くといった体験の機会も設けられている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	写真や動画の配信、参観・参加の工夫など、保育の様子を積極的に保護者に発信している	
内容①	各クラスで園での子どもの活動の様子を積極的に写真に収め、コメントを付して保育室前に掲示している。また月に一度の頻度で、活動の様子を撮影した動画を制作し、お迎えの時間に玄関のモニターで上映している。撮影した写真や動画は、園内での展示に加え、保育アプリを通じて保護者に向けて発信している。日頃の園での子どもの姿を保護者に見てもらう「定期公開日」も設け、一定時間はお面を着けて保育室の外から参観し、その後保育に加わるなど、友達との関わりをはじめとした普段の子どもの様子を保護者に見てもらう工夫がなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	業務の工数や手順の見直しを積極的に行い、働きやすい職場づくりに努めている	
内容②	行事の準備に対して職員用の年間予定表を作成している。計画書の提出日や会議などの日程をあらかじめ決めておくことで、内容の変更や改善をしたり、子どもの希望や意見を反映する余裕を設け、内容の充実を図っている。また、保育計画の策定など事務作業にかかる時間を職員一人ひとりにアンケートを採って確認し、平均値から一つの作業にかかる時間の目標値を定める取組を行っている。定めた目標値から作業工数の見直しに活かすとともに、職員の事務スキルの向上や書式・ルールの変更等を検討し、業務負荷の軽減と残業時間の削減につなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	開園3年目の園として、各種研修を活用して組織の土台づくりに取り組んでいる	
内容③	法人の保育の軸になる「養育保育」の理解と実践の様子を知る・体験するの必要を感じて、法人が実施する各種研修を活用している。また、実践保育(系列他園の園長・主任が園に来て一緒に保育する)を通して法人の大切にしている保育の考えを理解するようにしている。園の土台をつくる人づくりとして、法人の主任やリーダー向けの研修(「主任向けヒューマンスキル研修」「OJT担当ヒューマンスキル研修」)を活用している。また系列園の各主任が研修をつくって行う主任主催研修があるなど、法人全体としてリーダー育成に取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの主体性の尊重に重きを置いた保育実践に継続して取り組んでいる
	内容	子どもが興味のあることや挑戦してみたいことに取り組めるよう、教具・玩具・絵本等は自由に取り出せるよう配置し、週に一度内容を見直すこととしている。行事に取り組む際には、数か月前から計画を策定し、子どもの姿を確認しながら取り組むことで、主体的な活動への参加を促している。食事・排せつ・睡眠への援助についても、子どもの意欲の尊重やリズムの保障を大切にしている。保育者は子どもが安心して意欲的にさまざまなことに取り組めるよう、子ども自らの行動に移したことや気持ちを積極的に蓄めることを、子どもとの関わりの基本としている。
2	タイトル	異年齢の子どもたちの関わりによって育ち合いを促し、年齢別の活動を通じて発達相応の体験ができるよう工夫している
	内容	異年齢保育を採り入れることで、子どもたちが理解や発達が違う子どもとの関わりによる心の成長が促されるほか、子どもの自発的・主体的な活動の保障にもつながられている。同時に学年別の取組にも配慮しており、制作活動や表現活動、運動や散歩先などについては、発達を踏まえ、取組の内容のほか用いる教材や道具を変えている。年長児は月曜日に今週頑張ることを皆で話し合い、金曜日に振り返りの時間を設けるほか、当番活動として、毎日2人組で皆の前に立って日付や献立の発表など、就学を見すえた発達相応の取組も採り入れている。
3	タイトル	個別の状況に応じた援助・配慮を実践できるよう、対保護者・職員間における情報共有に取り組んでいる
	内容	食物アレルギーに対する対策を講じ、既往歴から、緊急時の適切な対処のための準備もしている。また発達の特性から特段の配慮を要する場合には、専門家の助言も参考としながら個々の状況に即した援助につなげている。日々の保育においても、子ども一人ひとりの発達や興味に応じられるよう、週の指導計画内に、子どもの様子を記録する工夫がなされている。これら個別の状況に応じた援助・配慮を実践できるよう、保護者との対話・面談、ノートを活用、フロア会議・職員会議などさまざまな機会を通じて、対保護者・職員間での情報共有に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域資源の活用により子どもの活動の幅を広げるとともに、園の方針や意図を伝えることで、保護者との相互理解を深めたいと考えている
	内容	近隣の商店へ子どもたちが保育者とともに買い物に行くなど、地域社会との交流促進の取組を今後一層深めることに加え、法人が運営する保育施設との連携を強化し、地域資源を効果的に活用しながら、子どもの活動の場を開拓したいと考えている。利用者調査では、戸外活動に対する保護者の期待と園側の方針との間に、認識の相違が見られており、相互理解を深めることを課題と考えている。保護者に対し、保育の方針や意図を、実践に基づく子どもの成長や変化を交えつつ、より効果的に伝達し、保護者との共通認識を築くための工夫を期待したい。
2	タイトル	現在の職員の自己評価と園長・主任による評価のサイクルと連動した、個別の育成計画の作成が期待される
	内容	全体としての研修計画はあるものの、個別の育成は、自己評価表をもとに年度初めに目標や受けたい研修を設定する程度の内容となっている。面談による目標の共有や進捗の確認、年度末の振り返りと園長・主任による評価の仕組みも設けられており、これを活かした個別の育成計画の整備が期待される。将来のキャリア像や年度の目標と希望の研修を踏まえつつ、前年度の評価などの現状の共有を、実務的な指導や内外の研修の受講の計画等に反映させるなど、人材育成制度としての精度を高めるための、計画様式の整備と運用も検討されたい。
3	タイトル	園独自の中・長期計画の作成と、その単年度の事業計画との連動の仕組みを整え、計画的な課題解決につなげることを期待したい
	内容	法人全体としての10年間の長期計画はあるが、園としての中・長期計画は作成されておらず、当園固有の状況や、地域の経営環境などを踏まえた、より具体的な課題解決を図る仕組みの整備が期待される。また中・長期の園の計画の各年度の取組内容を、単年度の事業計画へより具体的に反映させ、中間の進捗確認や年度末の事業報告書の作成時の振り返りを、次年度の事業計画の立案や中・長期計画の更新に活かすなど、各期間の計画が関連性を持ちながら実行される仕組みを確立し、中・長期の見通しのもとでの計画的な課題解決につなげることを期待したい。